

じやりじやりしている

土・砂・水など身近なものと関わり、感触を楽しんでいる子どもたち、体で感じたことを3歳児らしい言葉で表現しています。ありのままの表現を保育者に受け止められた子どもたちは、よりのびのびと自分の思いを表現し、さらに意欲的に環境に関わるようになることが期待できます。

子ども（3歳児）

奈良市立認定こども園都跡幼稚園

場面1「じやりじやりしている！」 ◎…子どもの言葉

- ・砂を手で触ったり、砂のついた手をこすり合わせたりしながら、◎「**じやりじやりしている**」とつぶやいたり、水と砂をスコップで混ぜながら、◎「**しゃりしゃりしている**」と、砂や砂と水の感触を喜ぶように言葉で伝えたりする。
- ・保育者「本当だね。じやりじやりしているね」と、共感する。
- ・スコップで砂をすくってバケツに入れ、ザクザクと混ぜてごちそう（焼き飯、かき氷など）作りをしたり、型押しに砂を入れて、いろいろな形を作ったりしていた。
- ・サラサラの砂を型に入れ、◎「**せーの!**」と、勢いよくひっくり返して「できたかな…」とゆっくりと型押しを持ち上げる。すると、砂がさーっと崩れて、形ができなかった。
- ・Sさん「あれ？**ぐちゃぐちゃ**になっちゃった」と、不思議そうに型押しと砂をじっと見ていた。保育者「ぐちゃぐちゃだね。なんでかな？」と、思いを受け止める。◎「もう一回やってみる!」と、何度も何度も繰り返し取り組んでいた。

科学する心に繋がる幼児の気付き・学び

不思議との出会い

砂の感触と砂と水を混ぜた感触を「じやりじやり」「しゃりしゃり」と、違う言葉にしながらか触る。



あれ？
「じやりじやりしている!」

どうして？
「なんでくずれるのかな？」

水気のない砂が崩れやすいということを実感的に感じている。

場面2「ぬるぬるしている」

ぬかるむ地面を見て、◎「**どろどろだね**」と、つぶやき興味をもった子どもたちは、◎「**ぬるぬるしている! ちょっと冷たい!**」◎「**どろどろどろー**」と嬉しそうに手で泥を混ぜたり、◎「**ぴちゃぴちゃしているよ!**」泥を叩いたり、泥のついた手を保育者に見せて、泥の感触を味わっていた。また、泥の感触を活かして、砂と水で作る時とは違ったごちそう作りが始まった。「ハンバーグを作っているの」と、泥を両手で捏ねて、ペタペタと丸い形を作った。また、お鍋に泥を入れて「とろとろのカレーだよ」とイメージが広がった。

水と砂とは違った泥の感触（どろどろ・ぬるぬる）を感じる。



「ぬるぬるしている!!」

場面3「足が固くなった!」

裸足でゆっくりと泥の中を歩く子どもたち。保育者が子どもの足に泥を塗ると、◎「**足もどろどろ!**」と足をじっと見つめる。保育者の足に泥を塗り返して◎「**ぺとぺとだよ!**」と言う。しばらくすると、泥が乾燥してきて、◎「**なんか足が固くなった!**」と、じっと不思議そうに足を見つめる。保育者「本当だね、先生の足も固くなってきた!」と思い共感すると、嬉しそうに足を見せてきた。

泥が乾燥して固くなったことを不思議に感じている。



どうして？
「足が固くなった」

【考察】

- ・砂場遊びの経験を重ねたことで、砂の感触を手や足で感じたり、そのことを言葉で表現したりした。「**じやりじやり、しゃりしゃり**」など、いろいろな感触を感じ、感じたことを保育者に伝えたいと思った体験であった。保育者が、子どもと同じ言葉や動きで共感し受け止めたことで、喜びを感じ安定して遊ぶ姿が見られた。
- ・子どもが泥で遊ぶ中で、「なんでだろう？不思議」と思うことが、何度も型押しを繰り返す姿に繋がった。
- ・ペタペタと手で地面を触ったり、裸足で歩いたり、ごちそうを作ったりなどイメージを膨らませて、体で感じた泥の感触を表現していた。「なんでかな？」と言葉には出さなくても、不思議に思う気持ちが、一人一人の姿や表情、言葉から伝わってきた。自分で実際に体験することの大切さを感じた。
- ・泥と砂と水の感触の違いを感じ、砂とは違ったごちそう（ハンバーグ）をイメージして作っていた。遊びを通して、砂と水と泥の感触の違いに気付き「**ぺたぺた**」や「**どろどろ**」と言ったり、「**なんか足が固くなった**」と伝えたりなど、泥の水分による違いや泥の乾いた様子の変化を言葉で表現していた。

保育者は、土・砂・水に関わり、不思議と出会い、心動かされる子どもたちの、年齢毎の特徴的な姿を捉えています。「不思議」という園独自の視点をもつことで、「科学する心」を育むためには、この時期に保育者の援助や環境をどのようにすることが大切かを考え、より具体的な工夫が図られています。

保育者（視点をもって観る）

奈良市立認定こども園都跡幼稚園

遊びの中で土や砂や水と十分に関わり、感覚・感性を働かせ、体全体で感じる子どもの場面を捉え、それが「科学する心」にどのように繋がるのか、下記の視点で見つめ直した。

- 不思議と出会う：子どもたちがどのような場面で“不思議”を体験しているのか。
- 不思議を表現する：体験した不思議を、どのように体や表情で表現したり、気付いたことを言葉にしているのか。
- 不思議を考える：素材のもつ性質や特徴に気付き、どのように予想を立てて、考えたり試したりして新たな気付きや発見に出合っていくのか。

また、環境の準備にあたっては主体性を育み、豊かな感性と思考力を育む援助の在り方について重点をおいて取り組むこととした。こうした取り組みの結果、以下のようなことが明らかになった。

	不思議と出会う 3歳児	不思議をおもしろがる 4歳児	不思議から新たな発見へ 5歳児
子どもの姿の捉え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何度も繰り返して遊ぶ。 ・ 「あれ？」 ・ 「みてみて！」 ・ 周りに伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「なんでかな」 ・ 「どうして？」 ・ 「おもしろい」 ・ いろいろな方法をやってみる。 ・ 先生や友達にも教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「こうなるだろう」（予測を立てて遊び出す） ・ 「あれ？」「どうして？」（予想通りにいかず、不思議に感じる） ・ 「こうしてみよう！」（いろいろな方法を試す） ・ 「こんどこそ！」（繰り返しやってみる） ・ 「わかった！」（新たな発見をする） 
援助・環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが不思議を何度も試すことができるような場を設定する。 ・ 子どもの「みてみて」に共感する。 ・ 不思議への興味が高まるように、保育者も一緒に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おもしろがっている姿を見逃さず、子どもたちと一緒に楽しさを共有する。 ・ 子どもたちと一緒に環境を準備したり、必要な用具を探したりする。 ・ 自分たちで考えて遊ぶ楽しさが味わえるように、見守ったり、つまずいた時は一緒に考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で選んで使えるように、いろいろな素材を子どもたちの扱いやすい場所に置いておく。 ・ じっくり試したり工夫したりしながら遊べる場所と、時間の確保をする。 ・ 子どもの「あれ？」「どうして？」の課題に対して、「次はどうしたら良いかな？」と投げかけたり、一緒に考えたりする。 ・ 子どもの気付きや発見に、共感したり認めたりする。 ・ 友達と試行錯誤しながら遊ぶ姿を見守り、困難や失敗を乗り越えた喜びに共感する。 